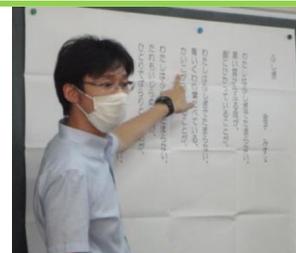


4時から夢塾 「資質・能力をはぐくむために…」

第12回「4時から夢塾」(示範授業)を9月2日(水)、新潟大学附属長岡小学校の平野秀穂先生から、名木野小の4年国語の詩の授業で、指導を頂いた。



1 授業の主眼 詩の工夫や気に入った表現とその理由について、ワークシートにまとめ、仲間と検討する中で、対比的な表現や語り手の心情を表す表現が、構成に基づいていることを理解し、他の詩も考えたいと意欲を高める。

2 授業の流れ

(1) T (宿題として出ていた左記の) 詩の題名は何ですか。

C 教えない C うみ C 聞いている C するめ

T どうして「するめ」って考えたの? C 調べた…

T 調べたの?素晴らしいね

(2) T 『ふしぎ』を読んで、気が付いたことは何ですか。

ふしぎ 金子 みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くことが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。

・各自、2回音読する。

◎工夫されているところやいいなと思ったところはどこか。

(各自がワークシートに書き、その後、近くの人と話し合う)

C (行間があるのに) 続いている

C 順番が逆さまになっている

C 雨は白のイメージなのに、なぜ銀なのか

C 葉は青ではなく緑色で、かいこは白い…

T 黒い雲と雨の銀(白)、葉の色とかいこの白がはんたい

C 色と様子が工夫されている

C くり返されている(わたしはふしぎでたまらない)

C (文末の)「ことが」もそう

C 「だれにきいてもわらってて…」のところがいい

T ここは人の気持ちだね…

T **みんなが見つけたのは次の五つです**(板書)

1 くり返し 2 はんたい 3 色 4 様子 5 人の気持ち

(*はんたいとは、「対比的な表現」のこと)

まど みちお
とうとう
やじるしになって
きいている
うみは
あちらですかと…



(3) T 『蓮と鶏』の最後のところの□に、何が入ると思いますか。

蓮と鶏 (にわとり) 金子 みすゞ

(「蓮」と「ひよこ」の写真を示しながら)

泥のなかから 蓮(はす)が咲く。

それをするのは 蓮(はす)じゃない。

卵のなかから 鶏(とり)がでる。

それをするのは 鶏(とり)じゃない。

それに私は 気がついた。

□

T □に何が入るか考えてください。

*「自分なりに適した表現を加えて、構成に基づいて理由を述べる」ことができる」を、Tは願ったのだが…

→時間が短く、難しかったようで、ほとんどの子が書けなかった。

*□に「それをするのは 私じゃない。」が入ることを伝えた後、T Cの頑張りを褒め授業を終えた。



ミニ講座 「資質・能力をはぐくむために～どのような授業を目指しているか～」

1 平野先生の関心の変化

○単元づくり・先輩に『単元作りを勉強しなさい』と言われたが、よくわからずに模索しながらやっている。「ゴール」を設定してやることだと思うようになった。また、どういう風にするのか？と悩んでいると「言語活動でやる」と教わった。



○大学院での学び・「言語活動のバリエーションを増やしたい」との思いから、学ぶことを決めた。

・「物語」とは何なのか。・読みの差は何から生まれるのか。・この子はどう読みを変えていくのか。

○今、「資質・能力をはぐくむこと」が言われているが・勉強ということ以上に、小学校の前の幼児期やその前。また、小学校の後の中学校に、上手く接続していくことが大事である。

2 今回の授業・・・一時間のみの飛び込み授業・「詩」でやろう。

・『金子みすゞ』の作品を選んだのは、①リズムがはっきりしている。②形式を踏まえているから。

○抽出児について・全員を一度に見ることはできないので、指標となる「みとり」やすい二名を決めた。

A児・思考傾向のバランスが良い。 B児・一点突破型の子ども（ここにこう書いている）

○授業を振り返る・「ふしぎ」で五つのことが出たが、人の気持ちが出なくてもそのまま進めるつもりでいた。子どもの反応として、白と黒が対比的（はんたい）。くり返している。色で進めた。

・「ふしぎ」は定型なので、パターンとしてとらえられればよいと考えた。「蓮と鶏」で、「□に何が入るかな」は子どもの考えとして出ると思ったのだが・・・⇒反省の多い授業だった。

○皆さんは授業後に・「今日の学びは○○君のスイッチを入れられたか」とか、□□君が「これ違うよ」△△さんが「でもね・・・」というような話合いが行われたか等、振り返っていると思う。

・コロナでの臨時休校後、説明のみの動画になる。「塾の先生の方が分かり良い」の子ども声がある。⇒学校教育は「子どもとの人間的な関わりを大切にしながら、人間性の成長をはぐくんでいる。」

3 附属長岡幼小中の研究（文科省の指定研究3年目）・・・私たちの目指す「総合的な学び」

○「社会的資質・能力」「実践的資質・能力」「認知的資質・能力」のすべてを備えた『総合的な学び』

・はぐくみたい資質・能力の最終形を職員で共有⇒その単元ではぐくみたい資質・能力を選択（具体的に言うとうどうなの？）⇒単元や本時の主眼を設定⇒実践化（授業前のやりとり、振り返りシート）



4 資質・能力をはぐくむ授業に有効な手立て・・・次の4点である

○子どもの願いや思いに基づいた表現活動を含む単元構成。○既存の意味の問い直しを含む単元構成。

○自分の立場や見方の自覚を促す教材や資料の提示。○子どもの話をよく聞く。

<参加者の声> ・授業後に、子どもたちが目を輝かせ詩に触れたり、平野先生に関わったりする姿を見て、子どもたちが「充実した時間を過ごせたのだ。」とこの姿で十分に理解できた。

・授業前の雰囲気作り方、一つ目の詩で見つけた工夫を二つ目の詩に応用させるなど、大変勉強になった。

・子どもが主体的に学ぼうとする学習課題の作り方を教えて頂いた。自校の研修課題にぴったりだった。

・子どもに揺さぶりをかけて、◎を作り出していくところで、子どもが関わりを深めながら解決していた。

・詩の学習の展開に新しい引き出しが増えた。「□の中に何が入るかな。」と、授業を進めてみようと思った。

・人間的な成長という言葉に、ほっとさせられた。成長を支え、一緒に成長できる先生を目指したいです！